

紀伊国一之宮 高野山総鎮守

丹生都比売神社

世界遺産登録20周年奉祝

柴燈大護摩供

さいとうおおごまく

令和6年12月8日(日)
午前11時執行(雨天決行)



柴燈大護摩供とは、不動明王の智火（智慧の炎）によって煩惱を焼き尽くし、天下国家の安泰と五穀豊穰を祈るものです。

屋外の祭場で執り行う大掛かりな護摩祈祷であり、修験道と真言密教における最大の奥義とされ、その智火にて護摩木を焚く者は、所願が成就すると伝わります。



紀の川の対岸の葛城山系には葛城修験、紀の川上流の吉野には大峯修験、そして高野山には高野修験。

丹生都比売神社は、これら修験の霊場として、明治の神仏分離令まで、柴燈大護摩供をはじめ様々な修験の神事が執り行われていました。



丹生都比売神社に残る大峯修験者の碑（鎌倉～室町期）

令和2年に葛城修験が日本遺産へ登録されると、当社での柴燈大護摩供再興の機運が高まります。

令和3年、葛城修験の日本遺産登録1周年奉祝として、京都聖護院門跡により150年ぶりとなる柴燈大護摩供が執り行われ、令和4年は吉野大峯修験大峯山寺が、令和5年は弘法大師御生誕1250年奉祝として真言宗系の九州修験の会が、それぞれ執り行いました。

本年は「高野火まつり実行委員会」（高野修験）により厳修されます。



当社HPで昨年の柴燈大護摩供の動画を公開中です。

<https://niutsuhime.or.jp/event/saitouoogomaku/>